

保育者養成における造形能力と造形指導のあり方 ——造形活動のえがく領域における教材研究を通して——

Modeling capability and Modeling coaching for Childcare worker: Through the study of Educational materials in the Painting part of Modeling activities

矢元 政行

Masayuki Yamoto

はじめに

保育士や幼稚園教諭になるための保育士資格や教員免許を取得するため、専門学校や短期大学、4年制大学等のいわゆる保育者養成校では、文部科学省告示の幼稚園教育要領や厚生労働省告示の保育所保育指針によって、それぞれ学校教育法、教育基本法と児童福祉法、児童福祉最低基準の規定に基づいてカリキュラムが整えられ、授業・実習等で単位を修得し保育者としての専門職に就いている。

幼稚園や保育園等での幼児造形の意義は、「感性を豊かにし自然やものを愛する心情を育てる」「造形活動を通して、体験を充実させ生きる力を育てる」「つくる喜び表現する喜びを味わい、自己表現や芸術活動を楽しむ」「造形能力の発達を通して、生きていく諸能力の発達を促す」である。人間形成の一環としての造形教育に携わる保育者の担う役割は言うまでもなく大きい。保育者自身が多く経験の積み、豊かな感性や自然、ものを愛する心情を持ち、造形能力を備えて表現活動を楽しめる存在でなくてはならない。保育者養成校は、これらを満たす人材の育成に努めなければならない。

私は、保育者養成校の造形科目を担当しているが、毎年4月に入学した学生に自己紹介をしてもらっている。その際に造形（図工・美術）について聞いている。造形が好きな教科という学生は、相対的に少なく、どちらかと言うと不得意、あまり好きでないという学生の多さが気になった。その理由は、絵をうまく描けない、物をつくるのが不器用でうまくできないという。造形の楽しさより表現技術の苦手意識が強い。そこで、資料にあるように具体的な意識調査を行った。

対象は北海道に居住する短期大学通信教育課程スクーリング受講生と専門学校の学生で保育士資

格及び幼稚園教諭免許の取得を目指す1年生104人である。

絵を描くなどの造形に対するアンケート調査から、絵に対する学生の苦手意識は74%にもなっていた。要因として、ほとんどの学生は、小学生の時期に苦手と思い、自分の絵は他の人が描く絵より劣っている。見たものを描くことができない。奥行きや立体感、発想やイメージが浮かばないなどの事について多く示した。得意と答えた学生についても表現技術的な要因が、その理由に挙げられており、表現技術が造形に対する学生の意識に大きく関わっていることがわかる。

造形科目の授業においては、技術的な指導が主になることがある。造形活動では様々な表現において技術は必要不可欠なものであるが、幼児教育・保育における造形の指導では、造形作家を目指した教育でないことは明らかである。豊かな人間力を目指した教育に造形活動がどのように関わっていくのか、そのことを見通した造形の指導が行われなければならないと考える。

養成校にとっては、授業を通して保育者養成としてどのような能力を育てていくか、十分なカリキュラム構造の理解に基づいた授業内容の設定とその成果の検証が必要であると考えられる。つまりそれぞれの授業では何を目的とし、それがどのように豊かな人間力につながっていくのか、十分に査定していく必要がある。

保育者養成校の造形関係授業の実態と展開とその成果などを通して、今後の造形授業の教材とそのあり方について考察してみる。

研究方法

本研究では、養成校の学生に対する造形の授業について、特にえがく領域での造形技術などの苦手意識が強かったため、まず学生自身が楽しく活動でき造形に対する苦手意識を克服し、造形活動に興味・関心を抱くことができるための教材と、その授業について考えてみた。造形活動に関する豊かな体験は学生の造形活動に対する意識の改革につながり、保育者としての造形能力や指導力の向上につながるのではないかと考える。

モダンテクニック等による実践例

実践例1：「葉っぱのフロッタージュであそぼう」

1. 教材の概要

フロッタージュは、段ボールやコイン、植物の葉っぱなどの凸凹した上に薄めの紙を乗せ、その紙を鉛筆や色鉛筆、クレヨンなどで擦ることで、紙の下にある物などの凸凹を擦り取る技法である。

2. 材料・用具について

・クレヨン・鉛筆・色鉛筆・コピー用紙・葉っぱや花

3. 造形教材のねらい

・フロッタージュは、とても簡単に楽しめて面白い技法である。素材をいろいろ変えていく事で飽

きが来ず楽しめる。

- ・色鉛筆を使って模様が浮き出る事を楽しむのが一番のねらいだが、子どもにとって色鉛筆を倒し、寝かせて適度な力でこする活動は難しい面もあるので、4歳児、5歳児を対象にした造形教材として適している。
- ・日常生活の、身の回りの様々なものの凹凸に気づき、そこから偶然生まれる造形的な模様を発見できる。
- ・フロッタージュの楽しさは、どんな場所、どんなものでも、表現を楽しめることだ。例えば、壁や床の木目模様も素材になる。コイン、身の回りのおもちゃをはじめ、凹凸のある物であればどんなものでも、こすり出して写しとることが可能である。
- ・あそび方としては、紙と色鉛筆を持って素材を探し回ることも面白い。そこから偶然生まれる造形表現も楽しめる。

4. 造形活動の流れ

- ①公園や園庭などで好きな葉っぱを集めてくる。
- ②葉を置きコピー用紙を上から重ね、色鉛筆を使って適度な力でこする。葉っぱの裏側のほうが、葉脈が際立っているのでフロッタージュをした際、綺麗に表現できる。
- ③本物の葉っぱと違い好きな色でカラフルに様々なものを表現することができる。

5. 実践での学生の感想

小さい頃、鉛筆などで遊んだ事を思い出した。フロッタージュ（こすりだし）と言うのは、初めて聞いた。近くにある物で遊べるので子どもたちにも楽しめる教材だと思う。クレヨン、色鉛筆も使って、様々な色を子どもたちに選択させると個性ある作品ができると思う。友達と何をこすったらよいか話し合ったり考えたりすることもできる。外に出てマンホールや壁、樹木などもこすってみたくなる。

実践例2：「スクラッチで表現しよう」

1. 教材の概要

スクラッチは、英語で「ひっかき傷」を意味する。パスまたはクレヨンで塗り重ねて2層にし、上の2層目を削り取って下の1層目の色を現す技法である。一般的には、1層目に鮮やかな色を塗り、2層目は黒で塗る。子どもが、塗った黒をひっかいた時に下から現れる色が、驚きと線への興味を引き起こす。塗り込める行為は、子どもの手の訓練にもなる。しっかりと塗ることが必要なため、物事に集中できるようになる4歳児、5歳児を対象にした造形教材として適している。

2. 材料・用具について

- ・白ボール紙（塗り重ねて削り取るので、厚手の紙がよい）・パスやクレヨン・削るための道具（割りばし、釘など）・マスキングテープ（塗り込む時に、はみ出ることを気にしなくてすむ）・フキサチーフ（画面を保護し転写を防ぎ美しく仕上がる）
- ・新聞紙（削りカスが多く出るので下に敷く）

3. 造形教材のねらい

- ・様々な色を、パスやクレヨンで塗り込むという行為を楽しむ。
- ・削ることによって出てきた線、偶然現れた色を楽しむ。
- ・この技法を使い、線や線の色を使った作品をつくる。

4. 造形活動の流れ

- ①マスキングテープで塗る範囲を決める。画用紙にクレパスで自由に色を塗る。
- ②黒のクレヨンで上から力を入れすぎないようにして2層目を塗る。
- ③全体をしっかりと塗りつぶしたら、釘などでひっかく。
- ④ひっかいたところに下の色が鮮やかに浮かび上がる。削りカスを落として、フキサチーフ（定着液）をまんべんなく吹き付ける。
- ⑤下からきれいな色が出てくるので製作過程が楽しい技法です。黒だけで塗り重ねるより、何色かを混ぜて塗ると作品に深みが出る。

5. 学生の感想

今日やった中で一番好きな技法でした。ひっかく強さで線の太さが変わっていくので木の幹は太目な線で、桜の散っている線は細くなるように工夫しました。色の配置も細かくいろいろな色を配置しひっかいた時に様々な色が出てくるように工夫しました。今回は黒で上から塗りつぶしましたが、他の色で塗りつぶしたら違う雰囲気の作品になると思った。

実践例3：「マーブリングであそぼう」

1. 教材の概要

マーブリングは墨流しの技法で、日本では墨汁などを使い昔から行われている。バットに入れた水に絵の具を落とし、軽くかき混ぜ、紙で水面に浮かんでいる模様を写し取る。手で描いてできないような模様をつくることができる。名前の由来である「マーブル」とは、大理石のような模様ができることからついた。水に絵の具をたらすだけで出来るので、子どもにも簡単に取り組むことができる。また、出来上がった不思議で複雑な模様に子どもは驚き感動する。次はこの色をたらししてみようとか次にやりたいことのアイディアが浮かんでくる。これは子どもの造形の重要な要素となる。

2. 材料・用具について

- ・バット（水を張るためのもので、使いたい紙が入る大きさ）・マーブリング用絵の具
- ・水・写し取る紙（水を吸収しやすく破れない和紙が適している）・竹串（つまようじ）
- ・新聞紙（机の上をぬらさないため）・雑巾（濡れたところをふき取るため）

3. 造形教材のねらい

- ・乳幼児から、1歳児～5歳児を対象にした造形教材として適している。
- ・乳児保育に関わるねらい

さまざまな色が水面で混ざり合う様子を見て色彩に興味をもつことができ、色合いや模様に変化する様子を見て楽しむことができる。

- ・ 1歳以上3歳未満児のねらい

マーブリングの技法を知り表現することを楽しむことができ、自ら色を選ぶなかで色に対する興味・関心を深めることができる。

- ・ 3歳以上児のねらい

マーブリングによって生まれる色彩や模様の美しさにふれることができ、偶然できた模様から想像力をはたらかせて造形活動を楽しむことができる。

4. 造形活動の流れ

- ①バットに水を入れる。(水はあまり多く入れなくともよい)
- ②水面に使いたい色をたらす。次々と絵の具をたらす。
- ③竹串などを使い、静かに水面に浮いた模様を好きなように混ぜる。
- ④模様が作れたら和紙をのせ、そっと引き上げ、新聞紙の上に広げて乾かす。
- ⑤新しい模様をつくる時は水を取り替える。
- ⑥マーブリングの模様を他の製作の材料にしてみても楽しい。



写真1～バケツに絵の具をたらす～

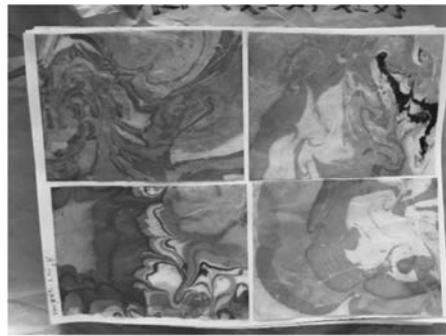


写真2～学生の作品「マーブリング」～

5. 学生の感想

マーブリングを初めて体験しました。色が水面に広がり、混ざり合うのがとてもきれいで感動しました。竹串を使って混ぜることが、少し難しくてなかなか模様を作れませんでした。紙を引き上げると、きれいに模様が出来上がり面白かった。子どもとやる時には、「ゆっくりと丁寧にやること」の声掛けをして取り組ませたいと思った。

実践例4：「染め紙であそぼう」

1. 教材の概要

折りたたんだ和紙に水を染み込ませてから、折った和紙の角に食用色素の色水を染み込ませる。折った和紙を開くと折り方や色の濃さによって模様のつき方や色の広がりが面白くできる。同じものがなくカラフルな模様が出来て楽しい造形活動である。

2. 材料・用具について

- ・和紙（障子紙）・絵の具（食用色素）・溶いた絵の具を入れる容器（卵が入っていたケースなどを利用するのもよい）・新聞紙

3. 造形教材のねらい

- ・紙の形、手触りを楽しみ、折ることで手の巧緻性を養う。
- ・紙に色が染み込んでいく様子を見て楽しむ。
- ・色が、じわじわと広がっていき、混ざっていく様子に興味を持つことができる。
- ・紙に色が染み込んでいくことを理解し、作品をつくる。

4. 造形活動の流れ

- ①和紙を三角形や四角形の形に幾重にも折り、水を染み込ませる。
- ②食用色素を水に溶かす。
- ③折った和紙の角を食用色素の水溶液につける。
- ④水溶液を染み込ませた和紙を開く。
- ⑤四角形に折った場合や三角形に折った場合、食用色素、絵の具の濃さや染み込ませる時間を変えてみる。白い部分を残したり、たくさん染み込ませて色同士を混ぜたりアレンジを考えてみる。
- ⑥四角形や三角形以外にもいろんな折り方で試してみる。
- ⑦いろいろな形に切り取って飾るなど、染め紙を生かした制作遊びも楽しむ。

※留意点として

- ・和紙の折り方については、角が出来るように折る。
- ・2歳児や3歳児で染め紙を行う場合、折る事が難しい子どもの場合は単純にくしゃくしゃに丸めて、好きな場所から、2～3色絵の具をつけても染め紙あそびが出来る。
- ・食用色素の色の作り方については、水で溶く量の調整が必要である。



写真3～卵の容器に食用色素で色をつくる～

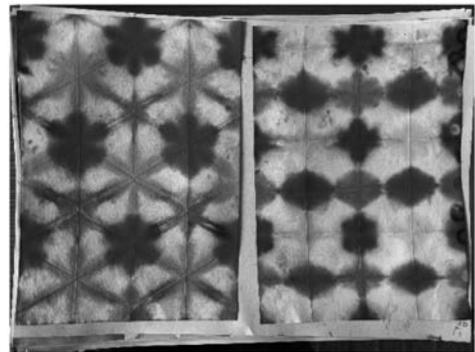


写真4～学生の作品「折り染め」～

5. 実践での学生の感想

お店などで見ていたものが簡単にできることに驚きました。簡単な折り方でいろいろな模様ができるので、紙を開く時のわくわく感もありとても楽しかった。子どもたちと一緒にやりたいと思い

ました。色の混ざる楽しさや広がり方など、子どもたちの興味や関心、想像力を高めていくこともできると考える。

実践例5：「スタンピングであそぼう」

1. 教材の概要

スタンピング（型押し）は、様々な物を型として絵の具を付け、画用紙などにその模様を判子のように押し写す技法である。ペットボトルのキャップやトレイ、段ボールなどの廃材や、葉っぱや花などの自然物を使うことにより子どもが造形活動を手軽に楽しめる教材である。子どもはスタンプを押すことが大好きで造形の教材に最適である。

2. 材料・用具について

- ・ 段ボール・トレイ・消しゴム・ペットボトルのキャップ・トレイ・葉っぱ・絵の具
- ・ 皿・画用紙

3. 造形教材のねらい

- ・ 3歳児、4歳児、5歳児を対象にした教材として、スタンプで形をつくることで、子どもたちは目的を持って構成あそびを楽しむようになる。
- ・ さまざまな物を型として押すことにより、形に興味を持ち構成あそびを楽しむことができる。
- ・ 同じ型でも、色を変えてみたり、繰り返し押してみたりすることで思いもよらない効果が得られる。
- ・ 指先を使って様々な道具や素材を使うことで、感触の違いに気づいたり、力加減を自分で考えながら行なったりできる。「1人でできた」という達成感を感じやすい。

4. 造形活動の流れ

①スタンプのあそび方を知る

スタンプあそびの面白さは、型の形がくっきりと画面に写ることになるので絵の具をしっかりとつける。

②スタンプあそび

- ・ 3～4人のグループになり、その中央にスタンプする絵の具皿を置く。
- ・ スタンピングで、形をつなぎ合わせて好きな形をつくったりしてあそぶ。
- ・ テーマを設定して、スタンピングを行う。
- ・ 計画的にスタンピングして形を組み合わせて構成する。スタンピングしていくうちに徐々にイメージが生まれて構成していくなどの取り組みも出てくる。
- ・ 活動を進めるうちに、色が混じり合ったり、より深い色味ができたりするなどの効果もある。

5. 学生の感想

実際にやってみると絵を描くのと違い動きを表現することが難しく感じた。トレイや段ボールなどを切って形を作ってスタンピングすることは、子どもたちに造形の楽しさや表現力、想像力をつけることができると思った。もっと色々な物をスタンピングしてみたいと思った。

考 察

実践例では、えがく領域における5種類のモダンテクニック等について、学生に体験してもらった。フロッターージュでは、クレヨンや色鉛筆でこすって作品をつくることを楽しみ、スクラッチでは、ひっかいた線から様々な色が出てくるのに感動し、マーブリングでは、色が水面で混ざり合うことに興味を持つことができた。さらに、染め紙では紙の折り方で、様々な模様が出来ることが発見し、スタンピングではスタンプで形を作り構成する表現を楽しむなど、この5つの教材は、どれも特別のスキルを必要とせず、ちょっとした発想や偶然性から想像力をかきたて、思いもよらぬ模様や美しい色彩が結果として表現されるということを学生は体験を通して実感することができた。さらに、学生の感想にもあるように、自身の作品に満足感、達成感を味わい表現することの楽しさを体験するとともに、実際に子ども達に指導する時のことまでもイメージし自信を持てたことがわかる。

結 論

えがく領域に苦手意識のある学生が多いという事前調査の実態を受け実施した5つの実践事例であったが、モダンテクニック等の体験を通して確実にえがく領域に対する学生の意識の変容が見られることが分かった。モダンテクニック等は、その偶然性を活かすことで想像力を刺激し柔軟な思考力を培うことができる。

幼児教育では、この偶然性のある表現を活かすことにより絵がかけない苦手だと思い込んでいる子どもでも抵抗なく表現することの楽しさに入り込み活動意欲を高めることができる。

モダンテクニック等の製作は、表現することの楽しさを学生自身が体験することで造形表現の苦手意識の改善に大きな成果を上げたことは明らかであり、さらに保育士や幼稚園教諭等になった時の自身の姿をイメージして、具体的な指導にまで学生の意欲を高めることができた。

今後、学生が楽しく取り組める教材、また興味・関心を高める教材の開発や実践が大変重要だと考える。造形活動は何のために行うのか、今回1つの方向性を示すことができた。

参考文献

- 樋口一成. (2018). *幼児造形の基礎「乳幼児の造形表現と造形教材」*. 萌文書林.
渡辺一洋. (2018). *幼児の造形表現*. ななみ書房.
内野 務. (2016). *造形素材にクワイ本「子どもが見つめる創造の◎路」*. 日本文教出版.
村田夕紀, 内本久美. (2019). *2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ*. ひかりのくに.
松下明生. (2016). *保育者に必要な造形能力についての研究～アンケートから見る保育者が必要と考える造形能力についての検証～*. 名古屋柳城短期大学研究紀要. 第38号.

堀内秀雄, 杉本亜鈴. (2017). 造形指導の現場と大学授業の実際から見る～幼稚園教諭養成大学造形カリキュラムのあり方～. 東京成徳短期大学紀要第51号.

資料

表1 絵を描くことについて (104人)

絵を描くのは得意、苦手について	得意	23人
	苦手	70人
	どちらでもない	11人

表2 絵を描くのが得意と回答した学生 (23人)

絵を描くのが得意と感じた学年	幼稚園	2人
	小学校	17人
	中学校	2人
	高等学校	1人
	その他	1人
絵を描くのが得意と感じた理由 (複数回答)	自分の絵が優れていると思う	21人
	授業で褒められた	7人
	奥行きや立体感が描ける	7人
	先生の言うとおりに描ける	9人
	見たものを描くことができる	17人
	発想やイメージが浮かぶ	10人
	その他	1人

表3 絵を描くのが苦手と回答した学生 (70人)

絵を描くのが苦手と感じた学年	幼稚園	4人
	小学校	38人
	中学校	13人
	高等学校	2人
	その他	13人
絵を描くのが苦手と感じた理由 (複数回答)	自分の絵が劣っていると思う	52人
	授業で訂正された	9人
	奥行きや立体感が描けない	43人
	先生の言うとおりに描けない	13人
	見たものを描くことができない	33人
	発想やイメージが浮かばない	32人
	その他	6人